

2017年9月 マニプールコロニーワークキャンプ報告書



【活動日程】 8月14日～8月27日

【活動場所】 インドウエストベンガル州アドラ地方マニプールハンセン病コロニー

【参加者（日本）】計7人 中村理子（名古屋大学4年）、酒井美和（東京外国語大学3年）、菰田千賀子（名古屋大学4年）、石田瑞季（筑波大学3年）、芦沢龍太郎（筑波大学3年）、袴田恵美（筑波大学1年）、谷澤沙南（筑波大学1年）

【活動報告】

《YC リサーチプロジェクト》

《概要》これまで活動を共にしてきたユースキャンパー（以下YC）へ、これまでの活動の評価と今後の協働型の在り方についての口頭調査を行う。

《目的》YCのワークキャンプへの考え方、協働型ワークキャンプを行うことでのコロニーやYC自身への影響、効果などを明らかにし、今後の協働型ワークキャンプの指針を考える。

《成果》コロニー外で就職をしたYCを除いた、現在コロニー内に住むYC全員に聞き取りをすることができた。回答は概ね協働型ワークキャンプに対するポジティブな意見が多く、今後の活動指針を決定していく上で有用な検討材料となった。



(YC に対してインタビューリサーチを行っている様子)

《井戸リサーチプロジェクト》

《概要》これまでのワークキャンプで作成したコロニー内の3か所の井戸について、それぞれの使用状況を村人に調査し、評価する。

《目的》前回までのワークキャンプで造った井戸の使用状況を調査することで、井戸製作活動の評価をし、次回のワークキャンプで行うべきワークを検討すること。

《成果》井戸の利用状況を地域ごとに大方把握することができ、井戸に関しては緊迫して新たなものを欲している状況ではないことが明らかとなった。一方で、井戸から出る水の水質が問題として上げられたため、今後はそれらの水質調査及び必要に応じて井戸の修繕に着手していくこととなった。



(村人に対してリサーチを行っている様子)



(現地で打ち合わせの様子)

《ゴミ箱リサーチプロジェクト》

《概要》これまでのワークキャンプで作製したコロニー内4か所のゴミ箱について、それぞれの使用状況を村人に調査し、評価する。

《目的》中長期テーマであるクリーンプロジェクトの成果を評価のためゴミ箱の利用状況を明らかにし、今後の中長期テーマの課題に向けた活動の指針を検討すること。

《成果》ゴミ箱によって需要はあるが、中のゴミがあふれかえている状況であり、これは村人のゴミ箱使用のモチベーションを下げている要因になると考えた。早急にゴミ箱のゴミを撤去するワークを行い、村人のゴミ箱使用の意欲を上げる必要があると考えた。また今後は村人自身でゴミ処理費用を捻出できるようにするためのシステムを考える必要があるとした。



(ゴミ箱からゴミが溢れかえている様子)

《村人リサーチプロジェクト》

《概要》村人が現在抱える問題について、就学、就労、医療、住居、差別問題の観点から口頭調査により明らかにする。

《目的》現在のマニプールコロニーが抱えている問題を調査し、今後のワークキャンプを行うにあたっての指針を定めること。

《成果》就業問題や居住問題に関しては未だ多くの問題が残っており、差別問題に関しても改善されつつあるとはいえ現在でもその一部が根強く残っていることが明らかとなった。これらを踏まえ今後のワークキャンプ活動は、就業問題と居住問題を改善していくことに焦点を当てながら継続していくべきであると結論付けた。



(通訳と共に村人へリサーチを行っている様子)

《エンタメプロジェクト》

《概要》村人や日本人キャンパーが出し物を行えるパーティを開催する。

《目的》多くの人が集まる場で村人や日本人キャンパーみんなが楽しむことができること。

《成果》事前告知の甲斐があり、沢山人に集まってもらうことが出来てとても盛り上がった。

また村人が特技を発表する機会を設けることができた。



(パーティー時の子供たちの様子)



(子供たちがダンスを披露している様子)